

IATSS NEWS

学会通信 国際交通安全学会

- IATSS Research Vol.40, Issue 2発行
- 第2回IATSS国際フォーラム (GIFTS) 開催
- 第56回IATSSフォーラム修了

IATSS Research Vol.40, Issue 2 発行

IATSS Research Vol.40, Issue 2が発行されました。特集テーマは The first global interactive forum on traffic and safety (2015) symposium on “diverse, regionally-rooted transport cultures” です。Elsevier Ltd. のサイトより、無償で全掲載論文のダウンロードが可能です。

▶<http://www.sciencedirect.com/science/journal/03861112/40/2>

<Special issue: The first global interactive forum on traffic and safety (2015) symposium on “diverse, regionally-rooted transport cultures”>

Kenji Doi

Introduction to the special issue: The first global interactive forum on traffic and safety (2015) symposium on “diverse, regionally-rooted transport cultures”

Fred Wegman

The future of road safety: A worldwide perspective

Francis John Gichaga

The impact of road improvements on road safety and related characteristics

Sutanto Soehodho

Public transportation development and traffic accident prevention in Indonesia

Katsutoshi Ohta

Patterns of motorization development and next-generation mobility systems

Martin E.H. Lee-Gosselin

Beyond “Peak Car”: A reflection on the evolution of public sentiment about the role of cars in cities

第2回IATSS国際フォーラム (GIFTS) 開催

国際交通安全学会は、創立50周年に向けた今後10年間、国際的な討議の場としてGlobal Interactive Forum on Traffic and Safety (GIFTS) を継続的に開催し、これまでの当学会の特徴であった「学際」をさらに進化させ、学術領域のみならずすべての交通に関係する者が参画する「超学際性 (Transdisciplinary)」を重視した活動を展開するとともに、さまざまな国、組織との持続的かつ組織的な「共創」関係の構築に取り組んでいくこととしました。

その第2回として、2016年11月19日 (土) 国連大学 (東京) にて、第2回IATSS国際フォーラム (GIFTS; Global Interactive Forum on Traffic and Safety) ～シンポジウム～を開催しました。

今回は、それぞれの国・地域における交通政策の背景・目的、政策立案上の優先順位の考え方、交通事故に関する価値観といった地域の特徴をひろく「交通文化」ととらえ、それぞれの交通文化を背景とした、(1) 交通安全に関する達成目標の設定、(2) 達成に向けての方法論や試み、の概要について情報共有を行いました。そのうえで、交通事故のない社会 (Vision Zero) に向けての新たなチャレンジについて議論を深めました。

このシンポジウムの概要につき (▶<http://www.iatss.or.jp/event/list/event17.html>) をご覧ください。

シンポジウム『交通文化と安全』 ～ Vision Zeroに向けた新たなステージ～

- 開会挨拶 会長 武内 和彦
- 趣旨説明 国際フォーラム実行委員会委員長 森本 章倫
- 基調講演 ウメオ大学外科主任教授 Ulf Björnstig
「Vision Zero: スウェーデンの科学に基づく交通事故死傷者数の削減戦略」
- パネルディスカッション
司会 東京大学名誉教授 太田 勝敏
話題提供/パネリスト
ロンドン大学交通研究所所長 Nicola Christie
「英国における交通安全文化の創出: 政治的な指導力の役割」
インド工科大学デリー一校土木工学部都市開発省交通計画主任教授 Geetam Tiwari
「インドにおける道路交通安全の現状」
ケープタウン大学土木工学科交通研究センター准教授 Marianne Vanderschuren
「南アフリカにおける Vision Zero の導入」
千葉工業大学創造工学部都市環境工学科教授 赤羽 弘和
「それぞれの選択と Vision Zero」
パネリスト Ulf Björnstig
● 閉会挨拶 専務理事 鎌田 聡
<敬称略>



第56回IATSSフォーラム修了

IATSSフォーラムは、1985年より東南アジア9カ国（カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）から研修生を招き、次世代若手リーダー育成のための研修を行っています。

修了生達（55回までの累計：959名）は、政府機関、大学、企業、NPO等で活躍すると共に、各国、地域の課題に対応すべくボランティア活動にも積極的に参加しています。

第56回は2016年9月24日から、9カ国17名が参加、途中日本人も2名加わり始まりました。

鈴鹿を拠点に、鳥羽、神戸、京都、奈良、東京を訪問し、政治、環境、交通他のセミナー、視察、

国際交流、ケーススタディ等、55日間の研修を行い11月12日に無事修了式を迎える事ができました。

IATSSの活動の理解を深めるため、今フォーラムでは開講式前に長谷川常務理事より活動概要と研究プロジェクトの紹介を行った事で、IATSSとの連携を意識しながら受講する事ができました。またIATSS吉見顧問の講話では、研修生に「リーダー像」の指針を与えました。

研修テーマは「持続可能な地域・社会づくり」を設定し、研修生自身が地域・社会をより良くするために住民・企業・行政がどのように連携すべきか「共に考え、共に学ぶ」共創の場を提供しました。

1. 研修生自身の地域の問題・課題を事前整理

2. 専門の先生方からの講義「日本を含めた諸外国の取り組み」
3. 地域・社会づくりの主体形成に必要なプロセスワークショップ
4. フィールドスタディで現場現実の体験（神戸、京都、奈良、鳥羽、東京）
5. グループ研究と研究発表（自国での活動含む）

文化的背景・専門分野の異なる研修生たちは積極的に知識を共有し、切磋琢磨し合い真剣に研修に取り組んできました。

研究期間中に培われた知識・体験・人との絆を活かし将来を担うヤングリーダーとして、更に成長しグローバルに活躍してくれる事を期待しています。



▲第56回IATSSフォーラム修了式



▲各国伝統衣装で修了式に参列